

〔 横浜市芸能センター（横浜にぎわい座） 〕

令和 6 年度業務計画及び収支予算

〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業
 を示します。

※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施 設 名	横浜市芸能センター 横浜にぎわい座
所 在 地	横浜市中区野毛町 3-110-1
構 造 ・ 規 模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下 3 階地上 13 階建の地下 2 階から地上 4 階及び地上 5 階部分の各一部を専有
敷 地 ・ 延 床 面 積	専有面積 4,358.97 m ²
開 館 日	平成 14 年 4 月 13 日

2 指定管理者

法 人 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所 在 地	横浜市中区山下町 2 番地
代 表 者	理事長 近藤誠一
設 立 年 月 日	平成 3 年 7 月 10 日
指 定 期 間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現 指 定 管 理 者 の 管 理 運 営 開 始 日	令和 4 年 4 月 1 日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

（1）基本的な方針

大衆芸能は日常生活の中で、人々の心の拠り所となる親しみやすさを持ち、生きる活力を生み出す原動力にもなっています。また、落語、講談、浪曲からは、人々は敬い、助け合うことが大切であり、一人では解決できないことも打開する知恵を授かることができるといった教えを学べます。

第 4 期指定管理期間では、経常公演「にぎわい寄席」「企画公演」を中核に据えた事業展開を継続しながら、大衆芸能の広い芸種の普及、社会包摂の取り組み、地域との連携等の事業を強化し、より公共施設としての役割を意識した運営に注力してまいります。

【基本方針】

大衆芸能の魅力を広め、地域の賑わいと、人々の交流を促し、豊かな人間性を育む演芸場を目指します。

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 方針1 | 魅力あふれる多彩な公演を主催し、だれもが気軽に大衆芸能を楽しめる演芸場 |
| 方針2 | ベテランから若手までが芸を磨く道場であり、晴れ舞台でもある演芸場 |
| 方針3 | 横浜の劇場街の賑わいを現代に創出し、人々の交流を生み出す演芸場 |
| 方針4 | 専門館としてのブランド力による安定的で持続可能な演芸場の運営 |

（２）令和６年度の業務の方針

ア 全体について

令和６年度は第４期指定管理期間の３年目として引き続き経常公演全体を安定的に実施し、大衆芸能や伝統文化への入り口としての役割を果たします。令和６年度は、桂歌丸前館長の七回忌に合わせて歌丸師匠のライフワークであった埋もれた作品の発掘や希少演目に焦点を当てた「名作落語の夕べ」の実施や三遊亭圓朝作「真景累ヶ淵」連続公演や展示、新真打の襲名披露公演を行います。また、寄席体験や学校等へのアウトリーチ、若手演者の育成、野毛地区との連携、新たに日本演芸家連合との５日間にわたる共催公演などさまざまな取り組みを進め、私たちに求められる多様な役割を果たしていきます。

イ 使命１ 大衆芸能と市民をつなげる

さまざまな形態の公演を催すことによって、幅広い世代やさまざまな市民層に大衆芸能への関心と理解を高める場となるよう機能させます。

ウ 使命２ 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる

さまざまな切り口のプログラムを実施することで、大衆芸能を中心とした文化芸術活動の創作や体験等の場を提供します。

エ 使命３ 大衆芸能を担う人材を育む

若手演者の育成に取り組むとともに、子どもに向けた鑑賞の機会を設け、次世代を担う人材の育成に取り組めます。

オ 使命４ 地域のにぎわいを創出する

地域の多様な団体等と連携して、地域のにぎわいづくりに貢献します。

カ 使命５ 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

市内唯一の大衆芸能の拠点として親しまれる施設となるように、あらゆる人たちを受け入れます。

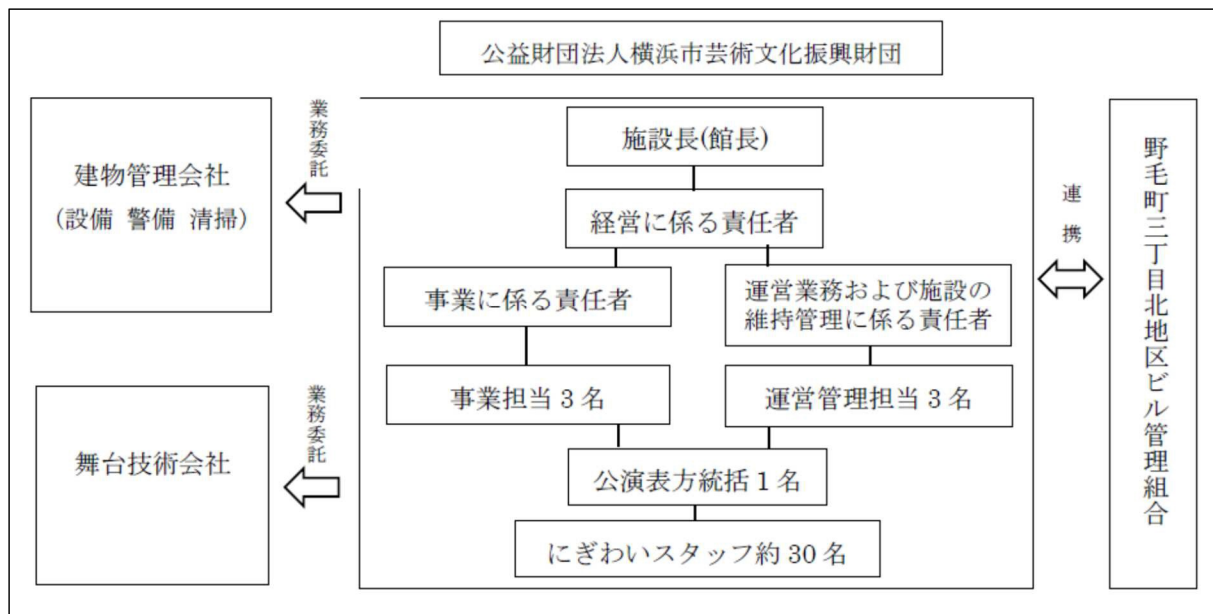
キ 使命６ 持続可能性を高める施設運営を行う

施設運営の持続可能性を高めるために、中長期的な視点で総合的な施設の維持管理を行います。

ク 使命７ 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

感染症拡大防止対策の実施とともに、来館者の安全、安心を第一に配慮した施設運営を行います。

4 運営組織の構造、人員配置



職員	雇用形態	1日の勤務時間	休日設定
館長(施設長)	職員	7時間45分(シフト制/休憩1時間) ※基本シフト：早番 9:30～18:15 遅番 13:15～22:00 ※その他、業務に応じて複数の勤務時間体系から選択可能 (職員就業規定に基づく)	月ごとに土日祝日に相当する日数を公休日として指定。業務に応じたシフト制(不定休)。
経営に係る責任者	職員		
事業に係る責任者	職員		
運営業務および施設の維持管理に係る責任者	職員		
事業担当①	職員		
事業担当②	職員		
事業担当③	職員		
運営管理担当①	職員		
運営管理担当②	職員		
運営管理担当③	臨時雇用職員		
公演表方統括	臨時雇用職員	4時間10分(シフト制/月15日前後)	週3～4日
にぎわいスタッフ	臨時雇用職員		

大衆芸能に関する高度な知識、演芸界や野毛地域をはじめとする幅広い人脈、劇場運営や安全管理等に対する高い見識などを併せ持つ館長を施設長として配置し、総合的な視点から大衆芸能の専門館に相応しい施設マネジメントを行います。また経営に関する責任者として、文化施設における豊富な運営経験やノウハウを持つ職員を配置し、館長のマネジメントをしっかりと支えます。

事業に係る責任者として芸術文化事業の企画制作や広報の業務に豊かな経験を有する職員を配置し館長の方針を主催事業に反映させます。運営業務ならびに施設の維持管理に係る責任者として施設運営や維持管理に長年の勤務実績を有する職員を配置します。

設備管理、清掃、警備、舞台技術の各業務についてはそれぞれの業務に高い専門性を有する会社に業務委託します。業務の履行状況を適切に管理しつつ経費の効率化もあわせて推進します。

5 令和6年度の業務の取組

(1) 文化事業

主に大衆芸能に親しむ入り口としての「横浜にぎわい寄席」、さまざまな演者の魅力をとおして大衆芸能を深く理解する各種独演会など公演毎の機能を明確にし、毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催します。桂歌丸前館長の七回忌に合わせて「桂歌丸師匠リスペクト 希少演目 名作落語の夕べ」、「にぎわい座 志ん輔三昧〜『真景累ヶ淵』通し口演 語り直し」を開催いたします。また、「趣味をテーマの演芸会」は今年度、新たに「ただの銭湯好き」公演を行います。さらに、子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成を推進するとともに、地元野毛地区をはじめとして地域の多様な団体等と連携し、まちのにぎわいの創出にも寄与します。

(2) 施設運営

利用者、来館者の声に耳を傾けながら、専門的なノウハウを発揮する組織的な施設運営を行い、引き続き安心・安全に施設を利用できるよう万全を期します。コロナ禍の収束を見据えつつ、演芸ホールとしての専門特性を広く周知するとともに、大衆芸能公演の開催ノウハウを施設利用者に提供し、プロの演芸家や団体が開催する公演の利用を促し、主催公演のラインナップとの相乗効果をはかります。また近隣施設の長期休館に伴い、代替会場として施設を提供します。

(3) 施設管理

施設の状態を常に良好に保ち、安全かつ快適に利用することができるように適切な管理を行います。新型コロナウイルスは5類に変更されましたが、感染症対策は世の中の動向を見つつ継続します。施設及び設備の維持保全及び修繕については、利用者、来館者が安全かつ快適に利用できるように適宜適切に取り組むとともに、大きな修繕については、横浜市と定期的な打合せの場を設け、十分協議を進めながら施設及び設備の長寿命化の視点で計画立案します。

(4) 収支

令和6年度は、新規鑑賞者や団体鑑賞者に向けたチケット販売促進や、プロの演芸家や主催団体との共催事業の誘致による稼働率の向上に積極的に取り組むなど事業収入、利用料収入の確保を重点的に取組みます。

(5) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和6年度も引き続き日報、月報の作成・管理を適切に行います。

(6) その他

令和6年度も専門的なノウハウの発揮と市民サービスの向上を、専門文化施設の特性を踏まえて共に発揮するため、市及び関係機関等との連絡調整を重点的に取組みます。

※具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 大衆芸能と市民をつなげる

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	鑑賞型事業のメ ニユーのジャン ル数、実施回数 及び入場者数	ジャンル数	25	25	—	—	—	25	—
		実施回数	227 回	200 回	—	—	—	200 回	—
		入場者数	31,962 人	35,000 人	—	—	—	50,000 人	—
2	展示型事業の実施回数		9 回	8 回	—	—	—	8 回	—
3	来場者（参加者）満足度（アン ケート集計）		4.4	4.2	—	—	—	4.5	—
4 ★	票券システム、ゲッティの 会員数		26,019 人	25,000 人	—	—	—	29,000 人	—
5 ★	横浜にぎわい寄席の初来館者 の割合		7.9%	40%	—	—	—	50%	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	鑑賞型事業及び展示型事業の参加者の声	R 4 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 5 達成指標	アンケート等への要望に迅速に対応できている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	アンケートに楽しんだ旨の感想が寄せられる
		R 8 実績	—
2 ★	広報媒体に寄せられた感想や意見	R 4 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 5 達成指標	アンケート等への要望に迅速に対応できている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	自主公演を他者に薦める感想が散見される
		R 8 実績	—

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

- ・桂歌丸前館長のライフワークであった三遊亭圓朝作品に焦点をあてた「名作落語の夕べ」を夏季に実施致します。具体的には、指定管理業務計画表の「I 文化事業」「1 大衆芸能に係る公演の企画・実施と情報の収集・提供」に記載します。

(2) 使命2 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	総来場者数		76, 669 人	75, 000 人	—	—	—	110, 000 人	—
2	貸館利用率	芸能ホール	74%	75%	—	—	—	80%	—
		小ホール	48%	60%	—	—	—	70%	—
3	体験型事業のジャンル数及び実施回数	ジャンル数	4	4	—	—	—	4	—
		実施回数	15	25	—	—	—	25	—
4 ★	公演誘致数		2	5	—	—	—	10	—
5 ★	利用者施設見学		37	10	—	—	—	30	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握	R 4 実績	貸出室場の利用者にアンケートを実施した
		R 5 達成指標	貸出室場の利用者にアンケートを実施している
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	対応が必要と判断される要望に対し迅速に行動できている
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

- ・寄席文字ワークショップなど各種体験型ワークショップ等を開催し、また経常公演前後の寄席囲を使用したホールの活用に取り組みます。具体的には、指定管理業務計画表の「Ⅰ文化事業」「2 大衆芸能の体験の場の提供」及び「Ⅱ施設運営」「1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供」に記載します。

(3) 使命3 大衆芸能を担う人材を育む

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	若手演者育成事業の実施回数	173 回	180 回	—	—	—	200 回	—
2	子どもをターゲットとした事業数	16	30	—	—	—	35	—
3 ★	若手演者育成公演の平均入場者数	84 人	100 人	—	—	—	110 人	—
4 ★	横浜にぎわい寄席への学生、子ども入場者数	399 人	700 人	—	—	—	800 人	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	子どもたちや学校の声	R 4 実績	アンケート等に寄せられた感想等を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できた
		R 5 達成指標	アンケート等に寄せられた感想等を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	学校から大衆芸能の体験やアウトリーチを望む声が横浜にぎわい座に寄せられている
		R 8 実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

- ・若手演者研鑽の場である「登竜門シリーズ in のげシャール」を年間通じて開催します。また、横浜にぎわい寄席や独演会等での若手登用に積極的に取り組みます。具体的には指定管理業務計画表の「I 文化事業」「3 子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成」に記載します。

(4) 使命4 地域のにぎわいを創出する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	地域の施設・団体と連携して実施した事業数	5	6	—	—	—	10	—
2 ★	自主事業公演への団体誘致数	27	50	—	—	—	70	—
3 ★	野毛共催事業数（利用促進委員会）	4	3	—	—	—	5	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	地域団体との意見交換等による現状把握	R 4 実績	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加した
		R 5 達成指標	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加し地域団体の要望を的確に把握したうえでの連携ができている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	地域団体のより幅広い各種会合に積極的に参加し、横浜にぎわい座に対する地域のさまざまな期待を把握できている
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

- ・野毛大道芸をはじめ、野毛地区街づくり会や野毛飲食業協同組合と連携してイベントの開催や広報活動を行います。具体的には指定管理業務計画表の「I 文化事業」「4 野毛地区のにぎわいづくり等への寄与」に記載します。

(5) 使命5 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	社会包摂の実現を目指す事業数	84	110	—	—	—	120	—
2 ★	横浜にぎわい寄席へのシニア入場者数	1,523 人	2,000 人	—	—	—	3,000 人	—
3 ★	横浜にぎわい寄席の障がい者料金利用数	369 人	300 人	—	—	—	700 人	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	バリアフリー視点からの来館者の声	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	障がい者団体へのインタビュー調査を実施している
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	障がい者団体へのインタビュー調査を実施している
		R 8 実績	—
2 ★	バリアフリー設備の維持管理	R 4 実績	機能の適正な維持
		R 5 達成指標	機能の適正な維持
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	機能の適正な維持
		R 8 実績	—

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

- ・にぎわい寄席をあらゆる人を受け入れる基盤として、誰もが楽しめる場として進化させます。具体的には指定管理業務計画表の「I 文化事業」「5 様々な市民等が大衆芸能に触れる機会を創出」に記載します。

(6) 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0 件	0 件	—	—	—	0 件	—
2	法定点検等の実施	100%	100%	—	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	147%	90%	—	—	—	90%	—
4 ★	来館者アンケートの施設快適性評価 /5 点満点	4.2	4.2	—	—	—	4.4	—
5 ★	避難誘導訓練実施	2 回	2 回	—	—	—	2 回	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	施設利用者へのヒアリングを行った
		R 5 達成指標	施設利用者へのアンケート回収時に利用者の協力を得られる場合はヒアリングを行っている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	施設利用者へのヒアリングで得られた要望のうち必要と判断される案件に対し迅速に対応できている
		R 8 実績	—
2 ★	管理運営費推移の要因分析	R 4 実績	光熱水費の上昇について分析を行った。
		R 5 達成指標	年度ごとの仮決算で、予算と差異が生じた管理運営費すべてについて要因分析と善後策検討を行っている。
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	第四期指定管理期間の管理運営費の推移の中で変動のある科目について要因を分析し改善案を策定する。
		R 8 実績	—

ウ 使命6を達成するために重点的に取り組む事項

- ・「指定管理者業務の基準」等 に示された業務を着実に遺漏なく実施します。具体的には、指定管理業務計画表の「Ⅲ施設管理」に記載します。

令和6年度 横浜にぎわい座会計 収支予算書

収入の部

(税込、単位：円)

科目		当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
	指定管理料	225,799,497	0	225,799,497	0	225,799,497	横浜市より
	利用料金収入	15,500,000	0	15,500,000	0	15,500,000	施設利用料、附帯設備利用料
	自主事業収入	103,374,000	0	103,374,000	0	103,374,000	チケット、講座料、貸切公演等の受託料
	雑入	130,000	0	130,000	0	130,000	
	印刷代	30,000	0	30,000	0	30,000	利用者コピー代
	自動販売機手数料	100,000	0	100,000	0	100,000	自動販売機売上手数料
	協賛金・助成金・負担金・寄附金	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
収入合計		344,803,497	0	344,803,497	0	344,803,497	

支出の部

科目		当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費		100,315,000	0	100,315,000	0	100,315,000	職員、アルバイト、にぎスタ人件費
	給与・賃金	82,890,000	0	82,890,000	0	82,890,000	
	社会保険料	9,613,000	0	9,613,000	0	9,613,000	
	通勤手当	4,756,000	0	4,756,000	0	4,756,000	
	健康診断費	38,000	0	38,000	0	38,000	
	勤労者福祉共済掛金	54,000	0	54,000	0	54,000	
	退職給付引当金繰入額	2,964,000	0	2,964,000	0	2,964,000	
事務費		7,649,497	0	7,649,497	0	7,649,497	
	旅費	120,000	0	120,000	0	120,000	出張旅費
	消耗品費	990,497	0	990,497	0	990,497	事務消耗品費
	印刷製本費	0	0	0	0	0	
	通信費	900,000	0	900,000	0	900,000	電話代、郵送料
	使用料及び賃借料	3,117,000	0	3,117,000	0	3,117,000	
	横浜市への支払分	87,000	0	87,000	0	87,000	市目的外使用料
	その他	3,030,000	0	3,030,000	0	3,030,000	コピー機、CATV等使用料
	備品購入費	330,000	0	330,000	0	330,000	備品の更新
	施設賠償責任保険	54,000	0	54,000	0	54,000	賠償責任保険
	職員等研修費	0	0	0	0	0	
	振込手数料	90,000	0	90,000	0	90,000	振込手数料
	リース料	1,500,000	0	1,500,000	0	1,500,000	P C リース
	手数料	200,000	0	200,000	0	200,000	産廃手数料
	地域協力費	50,000	0	50,000	0	50,000	町内会費
	委託費	0	0	0	0	0	
	広告宣伝費	33,000	0	33,000	0	33,000	施設広告掲載
	負担金、会費	0	0	0	0	0	
	雑支出	215,000	0	215,000	0	215,000	真打昇進披露、式典、供花
	仕入	50,000	0	50,000	0	50,000	グッズ
事業費		100,500,000	0	100,500,000	0	100,500,000	
	自主事業費	100,500,000	0	100,500,000	0	100,500,000	出演料、舞台技術費、広報物制作費、チケット販売手数料
管理費		100,394,000	0	100,394,000	0	100,394,000	
	光熱水費	16,507,000	0	16,507,000	0	16,507,000	
	電気料金	12,061,000	0	12,061,000	0	12,061,000	電気
	ガス料金	3,144,000	0	3,144,000	0	3,144,000	ガス
	水道料金	1,302,000	0	1,302,000	0	1,302,000	上下水道
	修繕費	1,800,000	0	1,800,000	0	1,800,000	小破修繕
	設備保全費	61,940,000	0	61,940,000	0	61,940,000	
	害虫駆除清掃保守	40,000	0	40,000	0	40,000	害虫駆除
	専有部分管理費	52,900,000	0	52,900,000	0	52,900,000	専有部の設備管理、警備、機械警備、清掃
	舞台技術費	9,000,000	0	9,000,000	0	9,000,000	ホール等日常管理業務
	共益費	20,147,000	0	20,147,000	0	20,147,000	ビル共用部管理費
公租公課		10,698,000	0	10,698,000	0	10,698,000	
	事業所税	0	0	0	0	0	
	消費税	10,597,000	0	10,597,000	0	10,597,000	消費税
	印紙税	79,000	0	79,000	0	79,000	収入印紙
	その他	22,000	0	22,000	0	22,000	
事務経費		25,247,000	0	25,247,000	0	25,247,000	
	本部分	25,247,000	0	25,247,000	0	25,247,000	事務局積算による数値
	当該施設分	0	0	0	0	0	
支出合計		344,803,497	0	344,803,497	0	344,803,497	
差引		0	0	0	0	0	